

ふじのくにの地域外交

将来に向け戦略的な交流を展開することで、国際的な存在感を高めていく静岡県の地域外交。ブラジルやアルゼンチンとの交流で注目される静岡県の多文化共生の取組を紹介する。

ブラジル、アルゼンチン編

多文化共生のための重点取組

静岡県が平成20年に制定した「多文化共生推進基本条例」は、県内に居住する日本人と外国人が互いの文化や慣習への理解を深め、安心で快適な暮らしを構築することを目的とした、都道府県では静岡県と宮城県の2例しかない条例だ。

県がこの条例に基づき策定した「多文化共生推進基本計画」では、多文化共生意識の普及、子どもの教育、雇用問題、危機管理対策に重点を置きながら、外国人県民の活躍を静岡県の地域づくりに活かす方針を打ち出している。

具体的には、日本人の子どもを

対象とした外国文化への理解を深めるための国際交流員による

出前講座や、日本人と外国人が触れ合うイベントの開催などにより交流機会の拡大を図るとともに、ホームページなどを活用し、様々な文化的背景を持つ人々が共生することの意義の浸透を図っている。また、不就業実態調査を踏まえた不就業の子どもへの就学促進や、公立学校に通う日本語指導が必要な児童生徒へのサポートも行っている。特に、静岡県在住外国人7万5千人のうち、2万6千人と35%を占めるブラジル人の児童・生徒への対応として、県内に10校ある南米系外国



地域のブラジル人コミュニティを対象とした、地震体験車による防災啓発。



ブラジル人国際交流員による小学校での出前講座。自国の文化や歴史について紹介をしている。

人学校に国際交流員を派遣し、子どもたちの学習状況の確認をしたり、日本語指導者やブラジル人心理カウンセラーを派遣するなど、教育環境の整備に努めている。さらに、外国人県民が災害時に自らの命を守り、地域で共助の担い手になれるよう、多言語ややさしい日本語による地震防災ガイドブックを作成するなど、関係機関と連携して防災啓発に取り組んでいる。

これらの活動により、外国人県民から「自分の文化に自信を持つことができた」、防災教育を受けた子どもから「防災対策の大切さを家族に伝えたい」などの声があがるなど、少しずつその成果が現れ始めている。

知事が南十字国家勲章を受賞

本県の施策をシンボリックに語るのには、東京、名古屋に次いで平成21年9月に設置された「在浜松ブラジル総領事館」の存在だ。同領事館は本県のみを管轄しており、開設以来、子どもへの教育をはじめとする在住ブラジル人の支援やブ

ラジルに関する情報提供などさまざまな連携・協力を行ってきたが、特に東日本大震災の時には、本県のポルトガル語版ホームページで発信する震災関連情報を総領事館がブラジル人住民への情報提供に活用するなど、その関係を強固にした。

このほか県では、市町、企業、NPOと連携して、様々な分野で共生の推進を図ってきた。こうした取組が評価され、在浜松ブラジル総領事館の推薦により、川勝知事は今年1月、ブラジル大統領より、同国の国家勲章「クルセイロ・ド・スル」国家勲章（南十字国家勲章）を授与された。この勲章はブラジル人社会に対する功績が顕著であった外国人に授与される同国最高位の勲章である。

夢と希望を与えた南米訪問

県は知事を団長とする静岡県訪問団を昨年11月にアルゼンチン・ブラジルに派遣した。アルゼンチンでは創立50周年を迎えたアルゼンチン静岡県人会主催の記念祝賀会に参加。ブラジルでは

ブラジル静岡県人会と活発な意見交換を行った。また、本県に拠点を置くフジドリームエアラインズが導入している航空機の製造会社・エンブラエル社の創業社長と本社を訪問。本県に住むブラジル人が誇りを持って暮らせるよう、同社関連施設を本県に誘致したいとの希望を伝えた。また、同社創業の基盤となったブラジル航空技術大学と県内大学の交流についても大きな可能性があるとの認識で一致。県内在住ブラジル人に夢と希望を与えた。

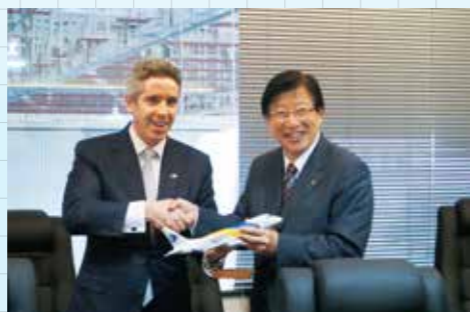
国内外から集まる期待の視線

世界との交流を拡大し、多様な主体と連携することは、県民の幸福度を最大化するだけでなく、新たな価値を創造することにもつながる。外国人県民の活躍を通じて魅力あふれる地域を生み出そうとする本県の「多文化共生」に国内外から注目が集まっている。

多文化共生で
静岡県の活力と魅力を増大



アルゼンチン静岡県人会創立50周年記念祝賀会には、県人会会員、県内関係企業代表者等約100名が参加した。



エンブラエル社幹部と親しく意見交換し、本県との信頼関係を築くことができた。